

国連宇宙空間平和利用委員会第 54 会期の開催結果について

平成 23 年 8 月 3 日

外 務 省

文 部 科 学 省

1. 概要

国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）は、1957 年の旧ソ連による世界初の人工衛星の打上げをきっかけに、常設委員会として創設されたものであり、宇宙活動に関する研究支援、情報交換、宇宙空間の平和利用の促進のための方策、法律問題の検討を行い、これらの活動の報告を国連総会に報告するもの。

毎年 1 回、本委員会、2 つの小委員会（科学技術小委員会、法律小委員会）をそれぞれ開催している。

第 54 会期本委員会は以下のとおり開催された。なお、本年が COPUOS50 周年及び有人飛行 50 周年に当たることから、50 周年記念会合が開催され、COPUOS50 周年記念宣言が採択された。

2. 今次会合の主な議題と結果

(1) 期間 2011 年 6 月 1 日（水）～6 月 10 日（金）

(2) 場所 国連ウィーン国際センター（オーストリア共和国）

(3) 参加国 79 の国々他（国際機関、関連団体、非政府組織等含む）

我が国からは、外務省、宇宙開発戦略本部事務局、文部科学省、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が出席した。

(4) COPUOS50 周年及び有人宇宙飛行 50 周年イベントの概要（第 17 回宇宙開発委員会で報告済み）

今次本委員会に際し、初日の 6 月 1 日に、COPUOS50 周年及び有人宇宙飛行 50 周年を記念して、COPUOS50 周年記念会合が開催されるとともに、宇宙飛行士パネル及び記念展示が開催された。

COPUOS50 周年記念会合においては、中根猛在ウィーン代表部大使及び文部科学省宇宙開発委員会の池上徹彦委員長等が出席し、我が国を代表して、池

上委員長が我が国の COPUOS における貢献及び有人宇宙分野における活動などを含むステートメントを述べたほか、同記念会合のラウンドテーブルに稲谷 JAXA 教授が「はやぶさ」の地球帰還や宇宙探査の将来計画等について説明した。また、6月2日の宇宙飛行士パネルに、我が国の代表として向井宇宙飛行士が出席し自身の宇宙活動等についての発表を行った。さらに本記念イベントには、野口宇宙飛行士が出席したほか、土井国連宇宙部（OOSA）宇宙応用課長も出席した。

（5）今次会合の主な議題・議論と結果

①一般発言

各国・各国際機関等から宇宙活動の現状、国際協力についての発言があり、我が国からは、冒頭、東日本大震災における各国からの支援に対する謝意を表明した後、COPUOS に対する我が国の貢献と期待、日本の宇宙政策の動向、具体的な活動と国際貢献（国際宇宙ステーション（ISS）日本実験棟「きぼう」における活動、小惑星「イトカワ」のサンプル初期分析、陸域観測技術衛星「だいち」の成果、APRSAF の開催結果）等に関する報告を行った。

※APRSAF:アジア太平洋宇宙機関会議（Asia Pacific Region Space Agency Forum）。アジア太平洋地域の宇宙機関、国際機関等を始め産学官から広く参加者を求め、意見交換、情報交換等を行い、宇宙利用技術のアジア太平洋地域における普及啓発等、国際協力の強化を目指すフォーラム。

②科学技術小委員会の報告

本年2月の科学技術小委員会第48会期に関する報告が行われた。また、本小委員会においてコンセンサスに至らなかった宇宙活動の長期的持続性作業部会に関する TOR (Terms of reference) については、非公式会合において議論されたのち、今次本委員会において採択され、以下の4つの専門家会合を本年中に発足させること等が合意された。

- ・ 地上における持続可能な開発のための持続可能な宇宙利用
- ・ スペースデブリ、宇宙運用及び宇宙状況監視（SSA）
- ・ 宇宙天気
- ・ 規制体系及び宇宙空間関係者に対するガイドライン

③次期ビューロー選出

2012-2013 年期の議長等について、我が国が擁立した堀川 JAXA 技術参与を含む、以下のメンバーが確定した。

- ・ 本委員会議長：堀川 JAXA 技術参与（日本）

- ・本委員会第1副議長：サントス氏（ポルトガル）
- ・本委員会第2副議長兼ラポラトール：ヴォランスキー氏（ポーランド）
- ・科学技術小委員会議長：メニコッシ氏（アルゼンチン）
- ・法律小委員会議長：ブリシベ氏（ナイジェリア）

④会議運営の改善

・本年3月の法律小委員会時にコスト削減の観点から提案された、会議記録として作成している未定稿（unedited transcript）の問題については、2012年から2015年までの間作成を中止し、当該期間はデジタル録音を試行することとなった。また、法律小委員会の会期短縮については、今次本委員会においても意見が出されたが、特段の進展はなかった。

個別議題の結果

1. 議題採択・議長発言（議題 1-3）

提案通り議題が採択され、議長発言の後、各議題の説明があった。

2. 一般発言（議題 4）

各国・各国際機関等から宇宙活動の現状、宇宙活動に関する国際協力等について発言があり、我が国からは中根在ウィーン代表部大使が、冒頭、東日本大震災における各国からの支援に対する謝意を表明したあと、①COPUOS に対する我が国の認識と期待、②日本の宇宙政策の動向、③具体的な活動と国際貢献（ISS 日本実験棟「きぼう」における活動、小惑星「イトカワ」のサンプル初期分析、陸域観測技術衛星「だいち」の成果、APRSAF の開催結果）等に関する報告を行った。

また、東日本大震災において各国・各機関から提供された衛星画像について、当該画像及び活用状況についてのプレゼンテーションを行った。

なお、約 50 にのぼる国、国際機関等から、我が国に対するお見舞いの言葉が述べられた。

3. 平和目的のために宇宙空間を維持するための方策と手段（議題 5）

我が国からは、二国間・多国間の場合での信頼関係の構築及び科学技術小委員会で議論が行われている「宇宙活動の長期的持続性」が宇宙空間の長期的平和利用にとって重要であることを指摘した。

4. UNISPACE III 勧告の実行（議題 6）

UNISPACE III の勧告を踏まえたアクションプランの実行について審議が行われ、我が国からは、勧告事項 10「衛星航法システムへの公平なアクセスと共存性の改良」に関連し、第 6 回衛星航法システムに関する国際委員会（ICG）会合が本年 9 月に東京において開催される旨の紹介を行うと共に、東日本大震災において衛星航法システムが活用された事例についての紹介を行った。

※UNISPACE III：1999年7月に、COPUOSの特別会期として開催された第3回国連宇宙会議の名称。同会議では、宇宙の平和利用の推進のための方策について、共同宣言として勧告を採択した。

5. 科学技術小委員会第 48 会期報告書（議題 7）

本年 2 月に開催された科学技術小委員会第 48 会期に関し、各国から災害管理、スペースデブリ等についての活動状況が報告された。我が国は衛星を

利用した災害管理に関し、センチネル・アジアの活動状況を紹介するとともに、東日本大震災において、14の国・機関等から国際災害チャータやセンチネル・アジア等を通じて約5000シーンの衛星データの提供を受け、災害規模や現状把握に役立てられたこと、また、陸域観測技術衛星「だいち」、超高速インターネット衛星「きずな」や技術試験衛星Ⅷ型「きく8号」による衛星通信回線の提供等我が国の宇宙技術が多くの面で貢献したことについて報告した。

さらに、本小委員会においてコンセンサスに至らなかった宇宙活動の長期的持続性作業部会に関するTOR (Terms of reference) についても、本委員会において採択され、以下の4つの専門家会合を本年中に発足させること等が確認された。なお、「宇宙天気」分野の専門家会合議長には、我が国から小原 JAXA 宇宙環境計測グループ長を擁立する旨を正式に表明した。

- ・ 地上における持続可能な開発のための持続可能な宇宙利用
- ・ スペースデブリ、宇宙運用及び宇宙状況監視 (SSA)
- ・ 宇宙天気
- ・ 規制体系及び宇宙空間関係者に対するガイドライン

※センチネル・アジア：我が国が提案、主導している衛星画像等の災害関連情報をインターネットを通じて共有するプロジェクト

6. 法律小委員会第50会期報告書（議題8）

本年3～4月に開催された法律小委員会第50会期に関し、我が国からは宇宙諸条約に沿った宇宙活動が行われているかを確認する上でも各国の国内法制に関する情報交換が重要であること等を報告した。

7. 宇宙技術のスピンオフ（議題9）

宇宙技術の応用について、我が国からは、最近の顕著な事例として、「ロケットにおける断熱材技術」の住宅への活用を紹介したほか、チリ鉱山落盤事故や東日本大震災において、宇宙下着や浄水器等が活用された旨の報告を行った。なお、宇宙下着については、COOPUOS50周年記念展示の会場にも展示した。

8. 宇宙と社会（宇宙と教育）（議題10）

本議題はUNISPACEⅢの勧告を踏まえて実施されている「能力開発」（アクションチーム17）と密接に関連するものであり、我が国からは宇宙教育の例として、JAXA宇宙教育センターの取組や、「きぼう」を活用したアジア地域への展開事例、九州工業大学が実施している国連宇宙フェローシップ・プログラム、大学連合による超小型衛星研究開発事業（UNIFORM）に関する紹介

を行った。

9. 宇宙と水（議題 11）

本議題は、途上国における水不足や水害の発生を背景として、議題化されたものであり、我が国からは、東日本大震災の津波において、センチネル・アジア等の枠組みを通じた人工衛星の活用実績を報告したほか、センチネル・アジアのような衛星画像等をはじめとした災害関連情報をインターネット上で共有する仕組みを通じて、水災害と水資源管理に関する情報を共有することが重要である旨表明した。また、本年度に打上げが予定されている第1期水循環変動観測衛星（GCOM-W1）の紹介を行った。

なお、本議題の下、次回会合からは「宇宙と生態系の管理」に関する議論も行うこととなった。

10. 宇宙と気候変動（議題 12）

我が国からは、地球観測に関する政府間会合（GEO）及び地球観測衛星委員会（GEOS）の一員として積極的に寄与している旨を紹介するとともに、我が国が国際的なリーダーシップを発揮して、全球地球観測システム（GEOSS）の構築等に向け尽力していることを表明した。また、森林減少・劣化に由来する排出の削減等（REDD+）におけるブラジルとの協力についても紹介を行った。

なお、ブラジルからのステートメントにおいても、JAXA とブラジル国立宇宙研究所との間での「REDD+」協力についての紹介が行われ、また議場外で「ALOS2」の運用が開始された暁には、引き続き日本との協力を行いたい旨の表明があった。

11. 国連システムの下での宇宙技術の利用（議題 13）

オスマン OOSA 部長から、ジュネーブで開催された第8回国連宇宙関連機関会合非公式オープンセッションに関する報告が行われた。

12. COPUOS の将来の役割（議題 14）

本議題は次回会合でも引き続き1年限りの単年議題として取り扱われることとなった。

13. その他の事項（議題 15）

（1）次期ビューロー選出

2012-2013 年期の議長等について、我が国が擁立した堀川 JAXA 技術参与

を含む、以下のメンバーが確定した。

- ・本委員会議長：堀川 JAXA 技術参与（日本）
- ・本委員会第1副議長：サントス氏（ポルトガル）
- ・本委員会第2副議長兼ラポラートル：ヴォランスキー氏（ポーランド）
- ・科学技術小委員会議長：メニコッシ氏（アルゼンチン）
- ・法律小委員会議長：ブリシベ氏（ナイジェリア）

(2) 会議運営の改善

本年3月の法律小委員会時にコスト削減の観点から提案された、会議記録として作成している未定稿 (unedited transcript) については、2012年から2015年までの間作成を中止し、当該期間はデジタル録音を試行することとなった。

法律小委員会の会期短縮については、今次本委員会においても意見が出されたが、特段の進展はなかった。